

# エコアクション 21 環境活動レポート

令和 3 年度

(活動期間：令和 3 年 5 月～令和 4 年 4 月)



令和 4 年 5 月 6 日

株式会社 牟田林業緑化

# 目次

1. 組織の概要 .....	1
2. 対象範囲 .....	2
3. 環境経営方針 .....	3
4. 環境経営目標 .....	4
5. 環境経営計画 .....	5
6. 環境経営目標に基づき実施した取組内容.....	7
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価、 環並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画.....	8
8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無 .....	14
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示.....	15

# 1. 組織の概要

## (1) 事業所名および代表者氏名

株式会社 牟田林業緑化  
代表取締役社長 牟田 儀宏

## (2) 所在地

本社：〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町 1728-2  
倉庫： 〃  
資材置場：〒841-0086 佐賀県鳥栖市牛原町別石 1105-1

## (3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者及び連絡担当者：田中信貴  
連絡先 TEL：0942-83-2917  
FAX：0942-85-0061  
E-mail：mutarin8@orion.ocn.ne.jp

## (4) 事業活動の概要

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業、解体工事業

## (5) 事業の規模

売上額：4億5千万円 (令和3年度)

区分	単位	本社	倉庫	資材置場	合計
従業員数	人	15	0	0	15
床面積	m <sup>2</sup>	225	665	2,000	2,890

## (6) 事業年度

5月～翌4月

## (7) 法人設立年月日

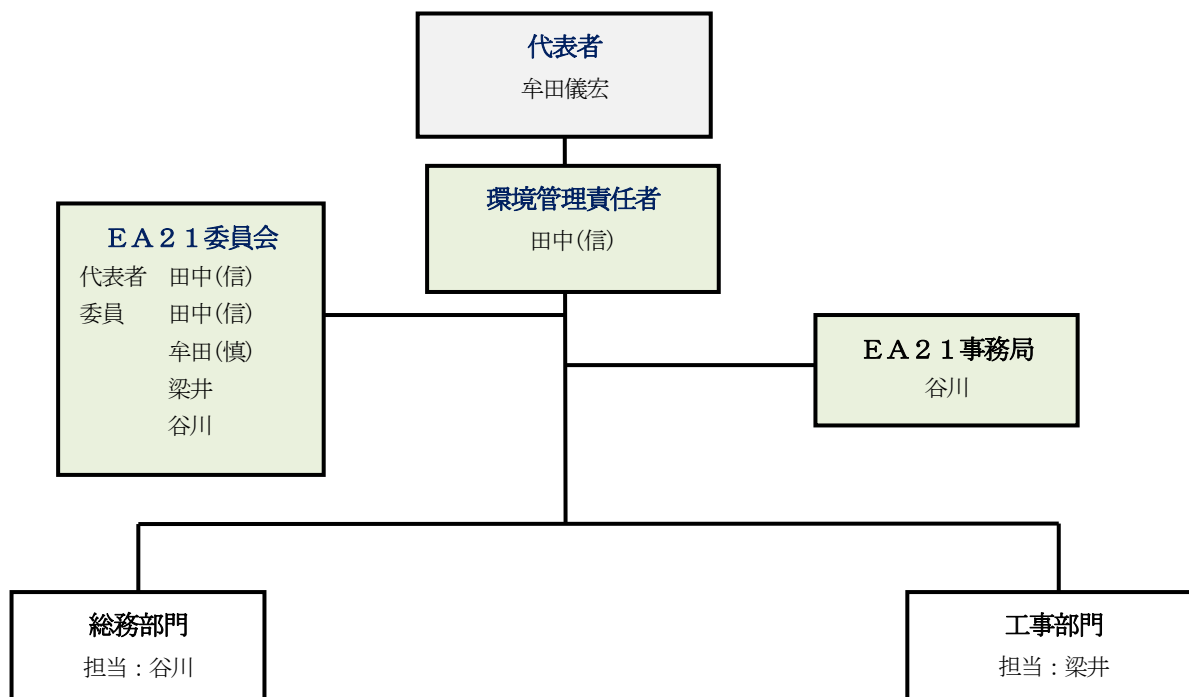
平成元年10月2日

## (8) 資本金

2.34千万円

### (9) 組織図 (エコアクション21実施体制図)

エコアクション21の活動のために以下のような実施体制を構築した。定期的にエコアクション21委員会を開催する。



## 2. 対象範囲

### (1) 対象組織

株式会社 牟田林業緑化

本 社：〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町 1728-2

倉 庫： ”

資材置場：〒841-0086 佐賀県鳥栖市牛原町別石 1105-1

### (2) 対象活動

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業、解体工事業

### (3) 対象外組織・活動

なし

### 3. 環境経営方針

#### 【環境経営理念】

株式会社 牟田林業緑化は、事業活動において想像力と感性を磨き、技術力と知恵を駆使して、継続的な環境保全に努め、自然と調和し、地域社会に溶け込み、生活の向上、社会の進歩と発展に貢献します。

#### 【基本方針】

- ・環境保全に関する法令等を遵守します。
- ・環境経営の継続的改善を誓約します。
- ・省エネルギーによる二酸化炭素排出量の削減、省資源やリサイクルによる廃棄物排出量の削減、節水による水使用量の削減、環境負荷の低減に努めます。
- ・建設工事に伴う産業廃棄物については適切な処理を行います。
- ・化学物質使用量の削減のため、適正使用・適正管理に努めます。
- ・自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善のため、工事の工期短縮に取り組み、顧客満足の向上と業務の効率化による働き方改革への取り組みを行います。
- ・全社員に環境経営方針を周知徹底し、環境保全に対する意識を向上させます。
- ・行政機関や環境団体等に協力をして、地域の環境保全活動に参加します。
- ・環境経営レポート等環境情報について、広く外部に公表します。

制定：平成29年11月20日

改定：令和3年5月1日

株式会社 牟田林業緑化

代表取締役社長 牟田儀宏

## 4. 環境経営目標

当社では誓約した環境経営方針を実現するために、単年度と中長期の具体的な環境経営目標を5項目設定した。環境目標は平成30年度実績を基準年とした。化学物質使用量の削減については、化学物質使用量の適正管理とした。自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善に関する取組としては、令和3年度より「工事の工期短縮」に取り組むこととした。

環境目標	サイト区分	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
			平成30年度 H30年5月～ H31年4月	令和3年度 R3年5月～ R4年4月	令和4年度 R4年5月～ R5年4月	令和5年度 R5年5月～ R6年4月	
1 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	148,358	143,907 (△3%)	142,423 (△4%)	140,940 (△5%)	
	(1)電気使用量の削減	事務所 現場	kWh	21,094	20,461 (△3%)	20,250 (△4%)	20,039 (△5%)
	(2)ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,792	5,618 (3%)	5,560 (△4%)	5,502 (△5%)
		現場	L	6,327	6,137 (3%)	6,073 (△4%)	6,010 (△5%)
	(3)軽油使用量の削減	現場	L	41,692	40,441 (△3%)	40,024 (△4%)	39,607 (△5%)
2 廃棄物排出量の削減							
	(1)一般廃棄物排出量削減	事務所	kg	384	372 (△3%)	368 (△4%)	364 (△5%)
	(2)産業廃棄物排出量把握	現場	t	1,553	実績把握 1,506 (△3%)	実績把握 1,490 (△4%)	実績把握 1,475 (△5%)
	(3)建設現場における 建設リサイクル推進 (建設リサイクル率)	現場	%	100	100	100	100
3 水使用量の削減	事務所	m <sup>3</sup>	423	410 (△3%)	406 (△4%)	401 (△5%)	
4 化学物質適正使用・適正管理	現場	kg	8.51	適正使用・適正管理を実施する			
5 工事の工期短縮	現場	実施率 %	-	100	100	100	

※二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数：0.483kg-CO2/kWhを使用した(平成28年度調整後排出係数)

## 5. 環境経営計画

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
(1)電気使用量の1%削減	事務所	室内温度は冷房時 28 度、暖房時 20 度を目安にエアコン設定温度を調節する。	谷川
		夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを励行して、冷暖房温度や機器使用を抑える。	谷川
		夜間、休日、パソコン、プリンター等の主電源を切る。	田中
		ノー残業デーの励行。	田中
(2)ガソリン使用量の1%削減	事務所 + 現場	アイドリングストップを励行する。	田中
		急発進・急加速を行わない。	田中
		タイヤの空気圧を定期的に確認する。	梁井
		外出の回数を減らすように社内を確認をする。	田中
		現場での忘れ物をしない。	梁井
(3)軽油使用量の1%削減	現場	アイドリングストップを励行する。	田中
		急発進・急加速を行わない。	田中
		タイヤの空気圧を定期的に確認する。	梁井
		外出の回数を減らすように社内を確認をする。	梁井

### 2. 建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
(1)一般廃棄物排出量の削減	事務所	紙、金属缶、ガラスびん、ペットボトル、電池等については、分別回収ボックス等を設置して、ごみの分別を徹底するとともに排出量の記録を取る。	谷川
		両面印刷や裏紙利用で紙使用量を削減し、排出時には分別排出を行い、ペーパーリサイクル率を高める。	谷川
		電子データでの記録の保存を推進し、紙使用量を削減する。	田中
(2)産業廃棄物排出量の把握	現場	適正に排出量を把握する。	牟田
(3)建設現場における建設リサイクル推進	現場	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	牟田

### 3. 水使用量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
水使用量の削減	事務所	井戸水に計量メーターを設置し、水使用量を記録する。	谷川
		重機の洗車時には、泥を落として洗車する。	牟田
		掃除、清掃の際に水を出しっぱなしにしない。	谷川

4. 化学物質使用量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
化学物質の適正使用・適正管理	現場	対象化学物質のSDS(安全データシート)を取り寄せ、各現場の使用者に安全管理・適正使用のための情報を提供する。	田中
		使用量を把握し、保管庫にて適正に保管する。	田中

5. 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
工事の工期短縮	現場	工程会議の実施による工程の最適化	牟田
		提出書類の早目の作成	牟田



## 6. 環境経営目標に基づき実施した取組内容

令和3年度の環境目標の達成状況は下記のとおりである。

二酸化炭素排出量は達成でき、廃棄物排出量は、一般廃棄物は目標を下回り、産業廃棄物の排出量は受注工事の内容に影響を受けるものの、目標を大きく達成した。水使用量は目標を下回った。化学物質使用および環境に配慮した資機材調達、施工管理については、適正に実施ができています。

環境目標	サイト区分	単位	基準年	令和3年度 (R2.5~R3.4)		目標達成率 %	目標達成状況	
			平成30年度 H30.5~H31.4	目標	実績			
二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	148,358	143,907	125,418	115%	○	
1	(1)電気使用量の削減	事務所	kWh	21,094	20,461	27,189	75%	×
	(2)ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,792	5,618	4,969	113%	○
		現場	L	6,327	6,137	7,086	87%	×
	(3)軽油使用量の削減	現場	L	41,692	40,441	30,841	131%	◎
廃棄物排出量の削減								
2	(1)一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	384	372	391	95%	△
	(2)産業廃棄物排出量の把握	現場	t	1,553	1,506	2,010	75%	×
	(3)建設現場における建設リサイクル推進	現場	%	100	100	100	100%	○
3	水使用量の削減	事務所	m <sup>3</sup>	423	410	305	136%	◎
4	化学物質の適正使用・適正管理	現場	kg	8.51	-	6.39	-	-
5	工事の工期短縮	現場	実施/ 対象件数	-	100	100	100%	○

※二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数 0.483kg-CO2/kWh(平成28年度調整後排出係数)

達成状況の判定 ◎: 達成率≥120% ○: 達成率≥100% △: 100>達成率≥90 ×: 達成率<90 \*達成率=(目標÷実績)×100

実施状況の判定 ○: 実行されている △: おおむね実施されている ×: 実行されていない -: 判定できない、該当しない

## 7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和3年の環境活動項目の取組状況と、それを踏まえた今後の取組方針は以下の通りです。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

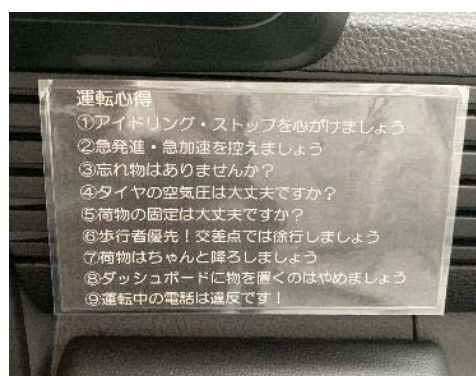
取組目標	達成率 達成状況	活動項目	実施状況	結果と評価・次年度の取組
(1)電気使用量の 3%削減	75% ×	室内温度は冷房時 28 度、暖房時 20 度を 目安にエアコン設定温度を調節する。	○	【現状】 電気使用量は目標を達成でき ていない。コロナ対策として換 気を優先したためである。ガソ リン使用量は目標値を達成でき ていないが、昨年よりは減って いる。軽油の使用量は重機の 稼働が減ったため大幅に削減 できている。
		夏季はクールビズ、冬季はウォームビズ を励行して、冷暖房温度や機器使用を抑 える。	○	
		夜間、休日、パソコン、プリンター等の主 電源を切る。	○	
		ノー残業デーの励行。	○	
(2)ガソリン使用 量の 3%削減 (事務所・現場)	事務所 113% ○ 現場 87% ×	アイドリングストップを励行する。	○	【今後】 電力使用量の削減について は、コロナ対策としての換気が 優先であろう。ガソリンおよび 軽油使用量については、工事 内容の影響が大きいが、使用 量を削減できるよう取り組んで いく。
		急発進・急加速を行わない。	○	
		タイヤの空気圧を定期的に確認する。	○	
		外出の回数を減らすように社内で確認を する。	○	
(3)軽油使用量の 3%削減	131% ◎	アイドリングストップを励行する。	○	
		急発進・急加速を行わない。	○	
		タイヤの空気圧を定期的に確認する。	○	
		外出の回数を減らすように社内で確認を する。	○	

達成状況の判定 ◎：達成率≥120% ○：達成率≥100% △：100>達成率≥90 ×：達成率<90 \*達成率=(目標÷実績)×100

実施状況の判定 ○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない



エアコン設定推奨温度の表示



運転心得(エコ運転)の表示

(2) 建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組目標	達成率 達成状況	活動項目	実施状況	結果と評価・次年度の取組
(1)一般廃棄物排出量の削減	95% △	紙、金属缶、ガラスびん、ペットボトル、電池等については、分別回収ボックス等を設置して、ごみの分別を徹底するとともに排出量の記録を取る。	○	【現状】 一般廃棄物は取組目標を実施している。書類の整理により廃棄量が増えた。産業廃棄物は昨年との工事内容の変化によって、著しく増加した。  【今後】 電子入札、電子納品への取り組みにより紙の使用量を減らしていきたい。 産業廃棄物については、適正に処理を実施していく。
		両面印刷や裏紙利用で紙使用量を削減し、排出時には分別排出を行い、ペーパーリサイクル率を高める。	○	
		電子データでの記録の保存を推進し、紙使用量を削減する。	○	
(2) 産業廃棄物排出量の把握	75% ×	適正に排出量を把握する。	○	
(3)建設現場における建設リサイクル推進	100% ○	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	○	

達成状況の判定 ◎：達成率≥120% ○：達成率≥100% △：100>達成率≥90 ×：達成率<90 \*達成率=(目標÷実績)×100  
 実施状況の判定 ○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない



分別収集状況

### (3) 水使用量の削減

取組目標	達成率 達成状況	活動項目	実施状況	結果と評価・次年度の取組
水使用量の削減	136% ◎	井戸水に計量メーターを設置し、水使用量を記録する。	○	【現状】 目標を達成することができた。  【今後】 取組目標を実施していく。
		重機の洗車時には、泥を落として洗車する。	○	
		掃除、清掃の際に水を出しっぱなしにしない。	○	

達成状況の判定 ◎：達成率≥120% ○：達成率≥100% △：100>達成率≥90 ×：達成率<90 \*達成率=(目標÷実績)×100  
 実施状況の判定 ○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない



水量メーター設置



節水のお願い表示

### (4) 化学物質使用量の削減

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	結果と評価・次年度の取組
化学物質の適正 使用・適正管理	-	対象化学物質のSDS(安全データシート)を取り寄せ、各現場の使用者に安全管理・適正使用のための情報を提供する。	○	【現状】 化学物質(薬剤)の使用については適正な管理を実施している。  【今後】 取組目標を実施していく。
		使用量を把握し、保管庫にて適正に保管する。	○	

実施状況の判定 ○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない



薬剤管理帳



安全データシート

(5) 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	結果と評価・次年度の取組
工事の工期短縮	100% ○	工程会議の実施による工程の最適化	○	【現状】 毎週の工程会議の実施により、会社全体として工期の最適化に取り組んでいる。  【今後】 取組目標を実施していく。 提出書類の提を早くするために、基準書類のサーバー上での共有化を図っていく。
		提出書類の早目の作成	○	

達成状況の判定 ◎：達成率≥120% ○：達成率≥100% △：100>達成率≥90 ×：達成率<90 \*達成率=(目標÷実績)×100

実施状況の判定 ○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない

## 中期環境経営目標

環境目標	サイト 区分	単位	基準年	次年度目標	中長期目標	
			平成 30 年度 H30.5～H31.4	令和 4 年度 R4.5～R5.4	令和 5 年度 R5.5～R6.4	令和 6 年度 R6.5～R7.4
二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	148,358	142,423 (△4%)	140,940 (△5%)	139,456 (△6%)
(1)電気使用量の削減	事務所 現場	kWh	21,094	20,250 (△4%)	20,039 (△5%)	19,828 (△6%)
(2)ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,792	5,560 (△4%)	5,502 (△5%)	5,444 (△6%)
	現場	L	6,327	6,073 (△4%)	6,010 (△5%)	5,947 (△6%)
(3)軽油使用量の削減	現場	L	41692	40,024 (△4%)	39,607 (△5%)	39,190 (△6%)
廃棄物排出量の削減						
(1)一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	384	368 (△4%)	364 (△5%)	360 (△6%)
(2)産業廃棄物排出量の把握	現場	t	1553	1,490 (△4%)	1,475 (△5%)	1,459 (△6%)
(3)建設現場における 建設リサイクル推進	現場	%	100	100	100	100
3 水使用量の削減	事務所	m <sup>3</sup>	423	406 (△4%)	401 (△5%)	397 (△6%)
4 化学物質の適正使用・適正管理	現場	kg	8.51	適正管理		
5 工事の期間短縮	現場	実施/ 対象件数	—	100	100	100

※二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数 0.483kg-CO2/kWh(平成 28 年度調整後排出係数)



## 次年度の環境経営計画

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
(1)電気使用量の1%削減	事務所	室内温度は冷房時 28 度、暖房時 20 度を目安にエアコン設定温度を調節する。	谷川
		夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを励行して、冷暖房温度や機器使用を抑える。	谷川
		夜間、休日、パソコン、プリンター等の主電源を切る。	田中
		ノー残業デーの励行。	田中
(2)ガソリン使用量の1%削減	事務所 + 現場	エコドライブ 10 への取り組み	田中
		外出の回数を減らすように社内を確認をする。	田中
		現場での忘れ物をしない。	梁井
(3)軽油使用量の1%削減	現場	エコドライブ 10 への取り組み	田中
		タイヤの空気圧を定期的に確認する。	梁井
		外出の回数を減らすように社内を確認をする。	梁井

### 2. 建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
(1)一般廃棄物排出量の削減	事務所	紙、金属缶、ガラスびん、ペットボトル、電池等については、分別回収ボックス等を設置して、ごみの分別を徹底するとともに排出量の記録を取る。	谷川
		両面印刷や裏紙利用で紙使用量を削減し、排出時には分別排出を行い、ペーパーリサイクル率を高める。	谷川
		電子データでの記録の保存を推進し、紙使用量を削減する。	田中
(2)産業廃棄物排出量の把握	現場	適正に排出量を把握する。	牟田
(3)建設現場における建設リサイクル推進	現場	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	牟田

### 3. 水使用量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
水使用量の削減	事務所	井戸水に計量メーターを設置し、水使用量を記録する。	谷川
		重機の洗車時には、泥を落として洗車する。	牟田
		掃除、清掃の際に水を出しっぱなしにしない。	谷川

### 4. 化学物質使用量の削減

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
化学物質の適正使用・適正管理	現場	対象化学物質のSDS(安全データシート)を取り寄せ、各現場の使用者に安全管理・適正使用のための情報を提供する。	田中
		使用量を把握し、保管庫にて適正に保管する。	田中

### 5. 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組項目	サイト区分	環境目標達成の手段	担当者
工事の工期短縮	現場	工程会議の実施による工程の最適化	牟田
		提出書類の早目の作成	牟田

## 8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

令和3年度の事業活動において、環境関連法規への違反や訴訟はありませんでした。また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。

関連法規名	主な遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物処分委託</li> <li>・マニフェストの交付・管理</li> <li>・産業廃棄物の保管基準</li> </ul>	○ 適切に実施
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象工事の届出</li> <li>・再資源化の実施</li> <li>・実施の報告</li> </ul>	○ 適切に実施
オフロード法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定特殊自動車は基準適合の確認</li> </ul>	○ 適切に実施
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定地域内における特定建設工事の場合</li> </ul>	○ 対象工事なし
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定地域内における特定建設工事の場合</li> </ul>	○ 対象工事なし
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定粉塵作業に伴う届出・測定</li> </ul>	○ 対象工事なし
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済自動車の引渡義務</li> </ul>	○ 適切に実施
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品廃棄の場合の適正な引渡、処理料金の支払</li> </ul>	○ 該当なし
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易定期点検</li> <li>・引渡義務、費用負担</li> </ul>	○ 点検を実施
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物の取り扱い</li> </ul>	○ 該当なし
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置届出</li> <li>・設置後等の水質検査</li> <li>・保守点検</li> <li>・定期検査</li> </ul>	○ 適切に実施



## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

環境経営目標に対する実施結果と状況				評価・見直・指示事項	
<b>【環境負荷軽減】</b>				<p>環境負荷低減に対しては、全社的に周知を行い会社全体で取組を行っている。今後は働き方改革への取り組みと併せて、業務時間の短縮を図ることによって使用量の削減につなげていきたい。</p> <p>令和3年度に引き続きコロナ対策として、換気を優先させたため空調に関する削減が難しかった。</p>	
目標項目	昨年度達成率	本年度達成率	取組状況		
二酸化炭素排出量の削減	125%	115%	○		
(1)電気使用量	79%	75%	○		
(2)ガソリン使用量	事務所	88%	113%		○
	現場		87%		○
(3)軽油使用量	150%	131%	○		
廃棄物排出量の削減					
(1)一般廃棄物	87%	95%	○		
(2)産業廃棄物排出量の把握	135%	75%	○		
(3)建設リサイクル	100%	100%	○		
水使用量の削減	81%	136%	○		
化学物質の適正使用・適正管理	—	—	○		
工事の工期短縮	—	100%	○		
目標達成率は受注工事の内容による影響が大きい、取組項目については実施できている。					
<b>【環境関連法規の遵守状況】</b> 法令に従って実施している。				令和3年度については、産業廃棄物の排出量が100tを超えたことから多量排出としての報告を実施する。	
<b>【外部からの苦情などの受付及び対応】</b> 長年緑地管理を行っている顧客より、植栽した樹木が枯損して伐採することとなった。				昨年度の緑地改善の苦情については『良くなった』と評価をいただいた。	
<b>【事故及び緊急事態の想定結果及び対応】</b> <b>【環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練】</b> 事故の想定内容の変更はない。施行訓練は8月に実施した。				現時点で問題はない。	
<b>【環境経営システム全体について】</b> 令和3年度から顧客満足・サービスの向上を図るため、工事の工期短縮を新しく目標とした。継続する新型コロナウイルスの社会的影響および原材料の価格高騰などにより、エネルギー使用量の抑制がより重要な事項となる。					
<b>【見直しの必要性について】</b>					
①環境方針の変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
②環境経営目標の変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
③環境経営計画の変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無    計画の内容については随時検討を続けていく					
④実施体制の変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無    問題なく実施できている					
本年度から顧客満足・サービスの向上を図るため、工事の工期短縮を新しく目標とした。工程会議の実施と提出書類の早目の提出を社内的に推進することより、スムーズな竣工ができているといえる。取り組む事項としてより具体的で新しいものを検討する。					